

報道関係者各位

平成 22 年 6 月 25 日
住信 S B I ネット銀行

~ ボーナスの使い道に関する調査 ~
ボーナスは「預貯金」に 目的は「老後の備え」 20代でも 20%
~ 「資産運用」は昨夏より増加 「外貨預金」50代で人気上昇~

住信 S B I ネット銀行株式会社 (URL: <http://www.netbk.co.jp/>、本社: 東京都港区、代表取締役社長: 田中嘉一、以下「住信 S B I ネット銀行」という) は、「ボーナスに関する意識調査」を住信 S B I ネット銀行を利用する全国の 20 ~ 60 代のお客さま約 80,000 人に実施し、1,861 人より回答をいただきました。

***** アンケート結果概要 *****

夏のボーナス やっぱり「預貯金」

今年の夏のボーナスが支給されたかたに、その主な使い道をうかがったところ、69%のかたが「預貯金」と回答し、「旅行、レジャー」の 34%、「物品購入」の 31%を大きく上回りました。

預貯金の目的 トップは「老後の備え」 20代でも 20%

今年の夏のボーナスの使い道として「預貯金」を選択したかたにその目的をうかがったところ、「老後の備え」が 44%で 1 位でした。「老後の備え」と回答したかたの割合は年代が上がるにつれて増加する傾向にありましたが、20代でも 20%のかたが「老後の備え」と回答しました。

「資産運用」昨夏より増加 「外貨預金」が 50代の間で人気上昇

今年の夏のボーナスの使い道として「資産運用」を選択したかたは、全体の 21%でした。昨年の夏のボーナスで「資産運用をした」と回答したかたは 16%でしたので、実に 5%の増加となりました。その内訳を見てみると、「外貨預金」と「債券」の伸び率が大きくなっています。特に 50 代では「外貨預金」を選択したかたの割合が 13%増加し、34%となりました。全体としては「株式」(60%)と「投資信託」(46%)を選択したかたの割合が高くなる結果となりました。



ボーナスの主な使い道として、7 割近くのかたが「預貯金」と回答しました。その目的をうかがったところ「老後の備え」が 44%でトップとなり、続いて「不測の事態への備え」(39%)となりました。また、3 位には「使い道が特に無いため、とりあえず預貯金」(27%)という回答がランクインしました。「何かを買うために!」というよりも、「なんとなく将来が不安だから...」といった考えから預貯金を選択するかたが多いようです。

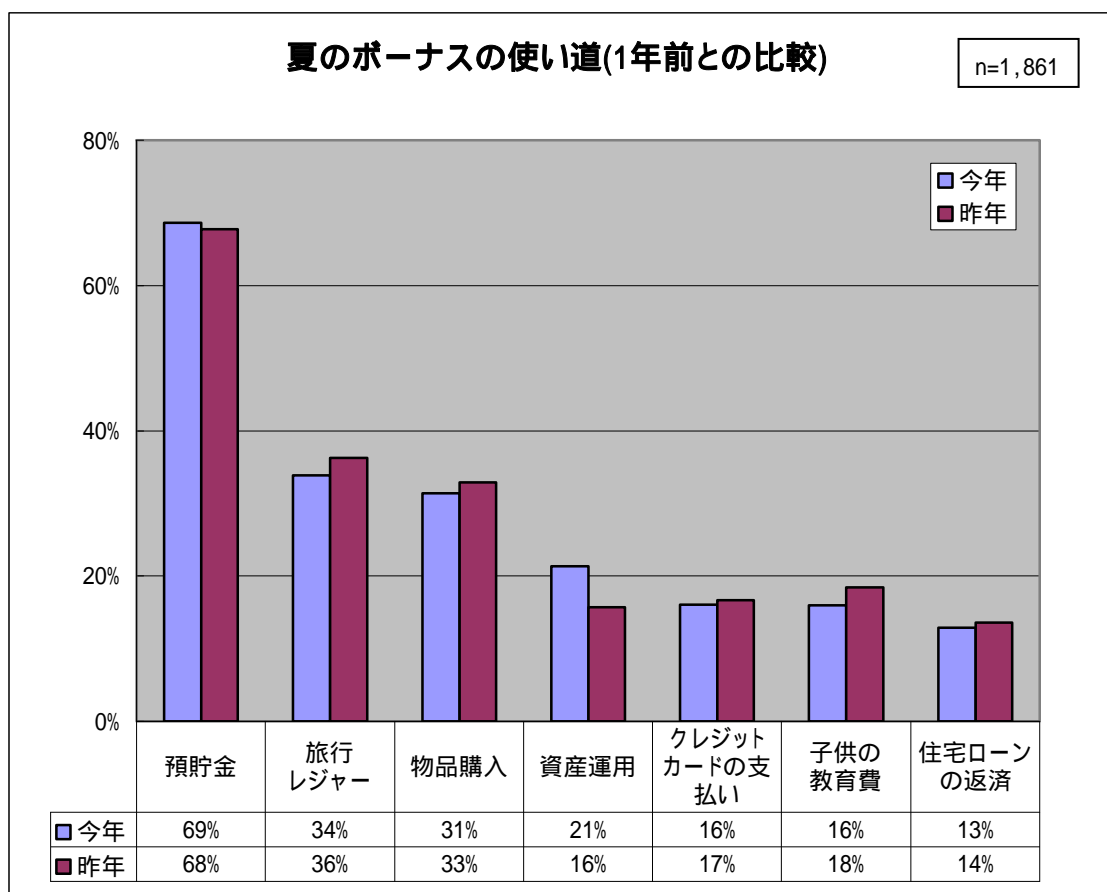
〈アンケート調査概要〉

調査期間	2010年6月14日(月)～6月17日(木)
調査対象	住信SBIネット銀行を利用する20～50代の個人
調査方法	インターネットアンケート
調査地域	全国
調査実施数	約80,000人(各世代約20,000人ずつ)
回答者数	1,861人 内訳(20代:354人 30代:429人 40代:515人 50代:563人)

〈調査結果抜粋〉

夏のボーナスの使い道(1年前との比較)【5つまで選択可】

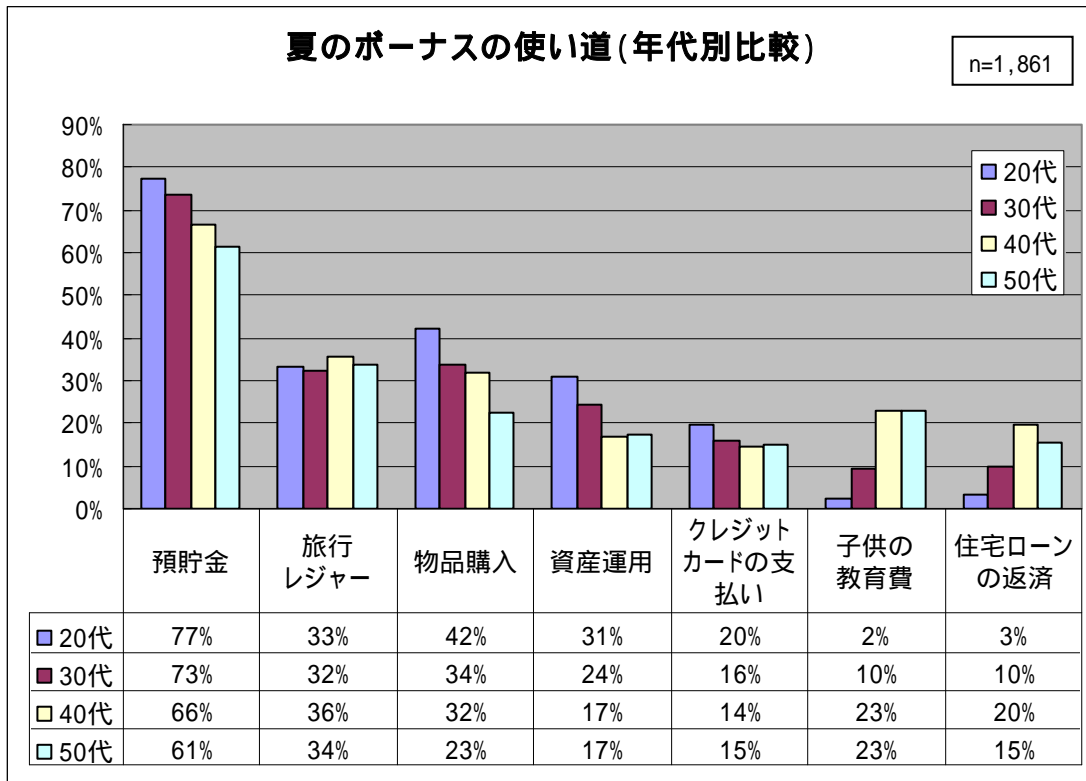
【上位7項目】



夏のボーナスの使い道を1年前と比較してみると、「預貯金」と「資産運用」を選択したかたの割合が昨年よりも増加していることがわかりました。「預貯金」は68%から69%、「資産運用」は16%から21%とそれぞれ増加しています。一方で「旅行、レジャー」、「物品購入」といった消費の割合が減少しています。消費を手控え、その分「預貯金」や「資産運用」に資金が流れたものと考えられます。

夏のボーナスの使い道（年代別比較）【5つまで選択可】

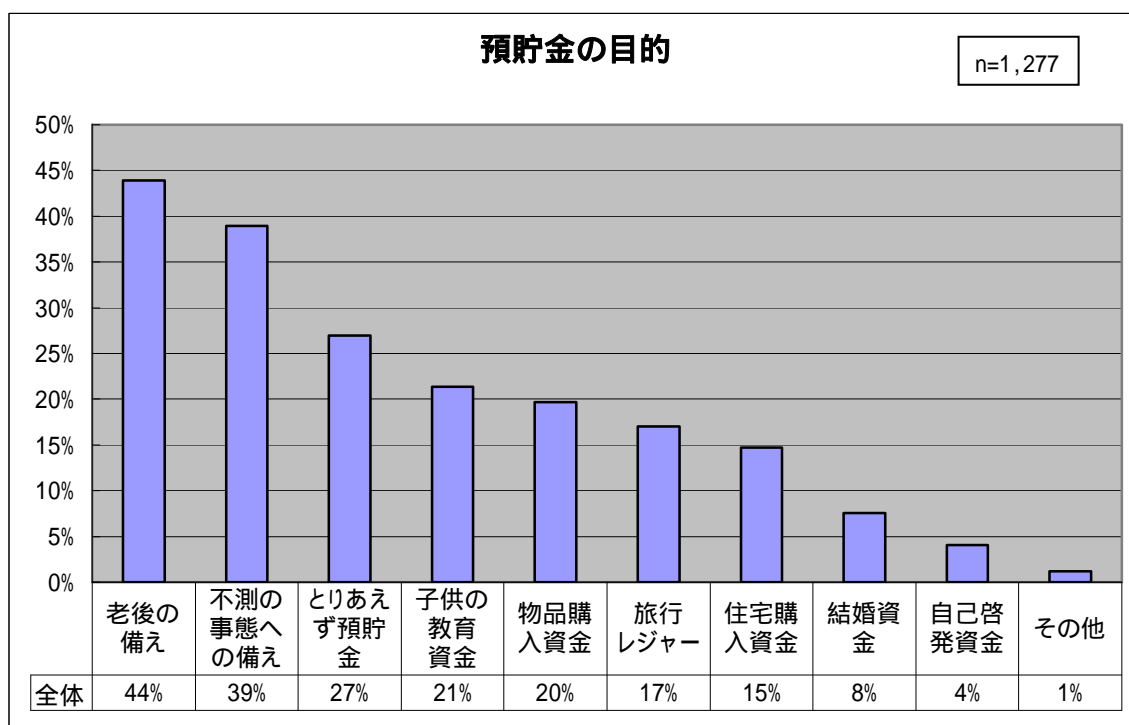
【上位7項目】



夏のボーナスの使い道を年代別で比較すると、若い年代ほど「預貯金」、「物品購入」、「資産運用」を選択する割合が高くなりました。

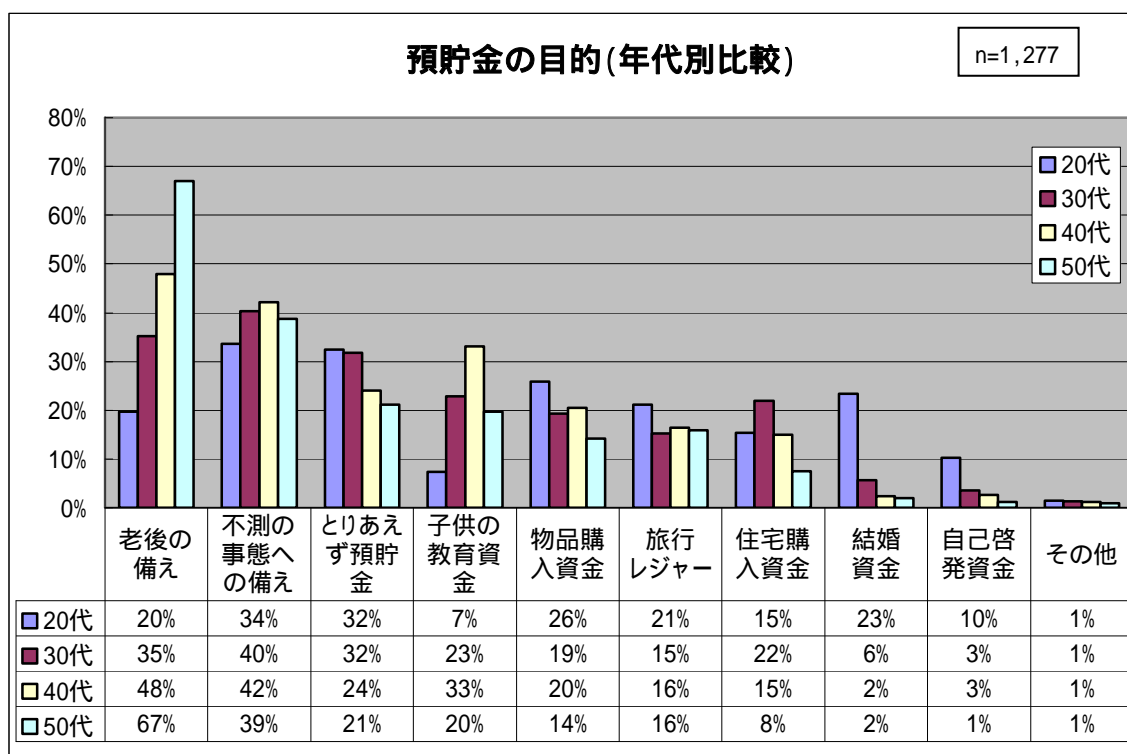
一方、30代以上は「子供の教育費」と「住宅ローンの返済」の割合が高くなっています。

預貯金の目的【複数選択可】



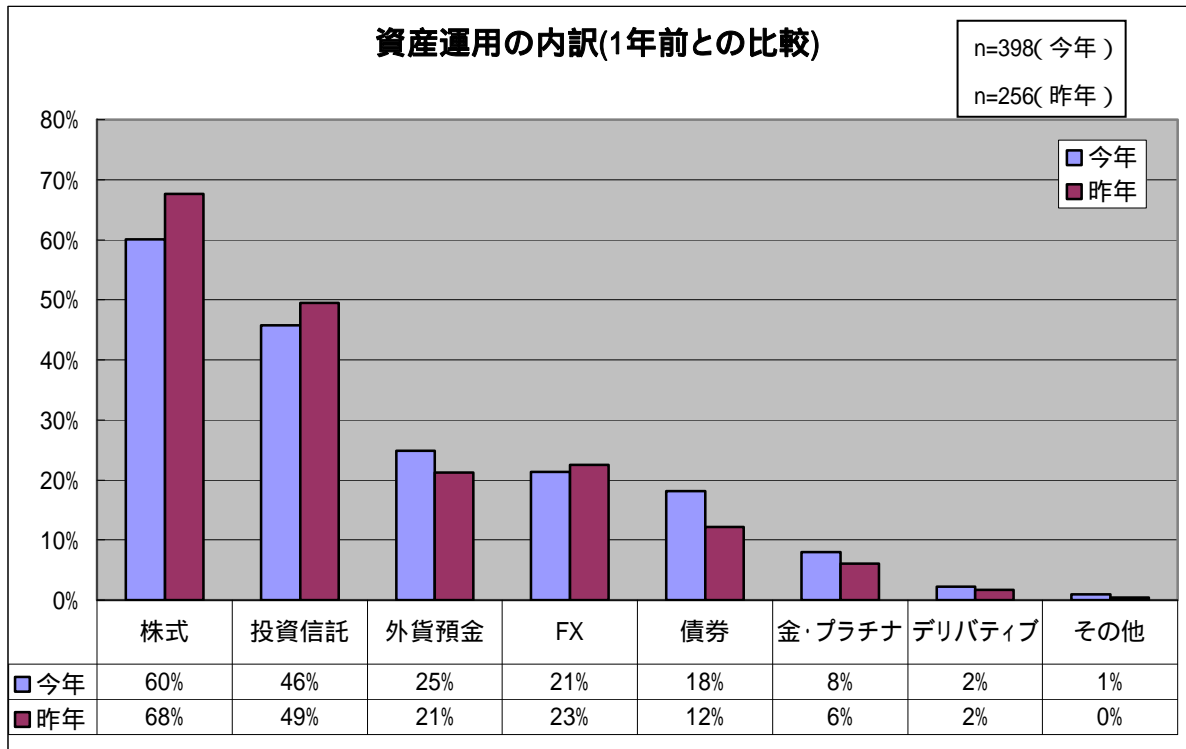
夏のボーナスの使い道として「預貯金」を選択したかたに、その目的をうかがったところ、44%のかたが「老後の備え」と回答しました。続いて「不測の事態への備え」が39%となり、「物品購入」や「旅行、レジャー」のためというよりは、将来の備えとしてボーナスを預貯金に回しているかたが多いことがわかりました。

預貯金の目的（年代別比較）【複数選択可】



預貯金の目的として「老後の備え」と回答したかたは年代が高くなるにつれて増加する傾向にありますが、20代でも20%のかたが「老後の備え」のために預貯金をしていることがわかりました。また、「結婚資金」、「自己啓発資金」と回答したかたの割合は20代が突出して高くなっています。

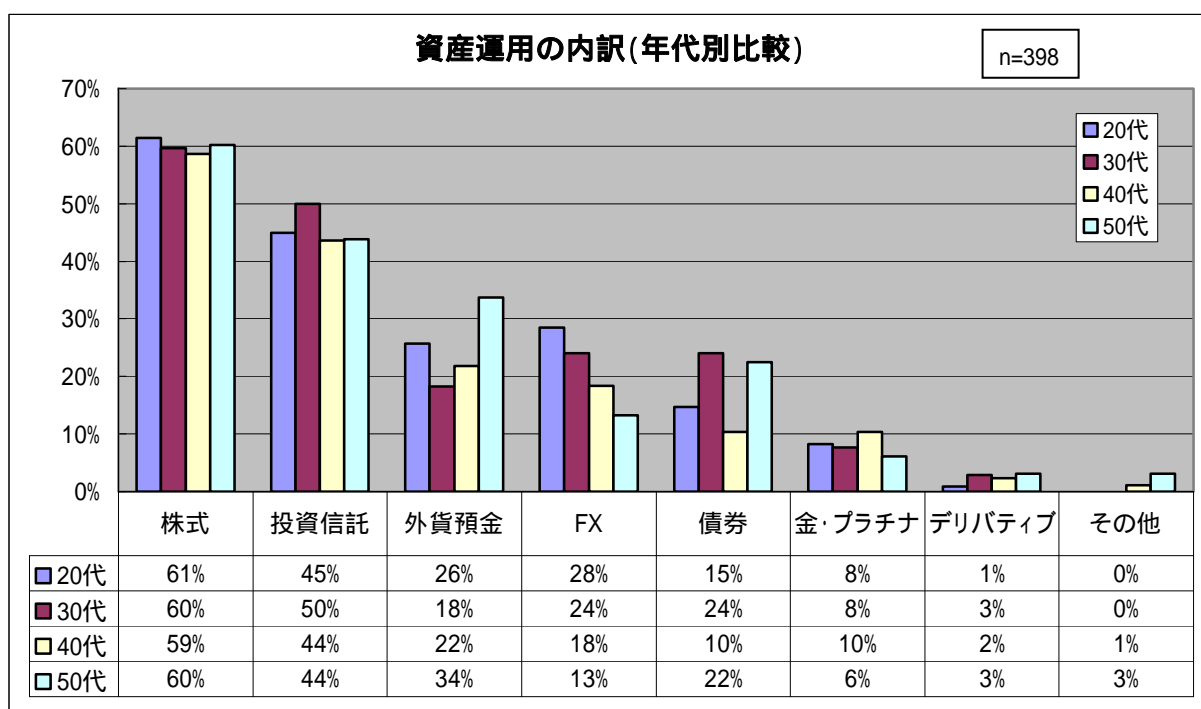
資産運用の内訳（1年前との比較）【複数選択可】



今年の夏のボーナスの使い道として「資産運用」を選択したかたに、その運用先をうかがったところ、60%のかたが「株式」と回答しました。続いて「投資信託」(46%)、「外貨預金」(25%)という結果になりました。

1年前と運用先を比較してみると、「株式」と「投資信託」が依然として高い水準を保っているものの、その割合は減少しました。一方で運用先として「外貨預金」、「債券」を選んだかたの割合はそれぞれ増加しています。

資産運用の内訳（年代別比較）【複数選択可】



資産運用の内訳を年代別で比較してみると、「外貨預金」における50代の割合が高くなっていることがわかりました。

また、若い年代ほど「FX」を選択する割合が高くなっています。

資産運用の内訳（1年前との比較、年代別比較）【複数選択可】

	20代		30代		40代		50代		全体	
	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年
株式	61%	57%	60%	70%	59%	69%	60%	75%	60%	68%
投資信託	45%	45%	50%	60%	44%	42%	44%	49%	46%	49%
外貨預金	26%	29%	18%	16%	22%	19%	34%	21%	25%	21%
FX	28%	29%	24%	21%	18%	21%	13%	19%	21%	23%
債券	15%	13%	24%	15%	10%	5%	22%	15%	18%	12%
金・プラチナ	8%	7%	8%	8%	10%	5%	6%	4%	8%	6%
デリバティブ	1%	2%	3%	2%	2%	2%	3%	2%	2%	2%
その他	0%	0%	0%	0%	1%	2%	3%	0%	1%	0%

1年前と比べ、ボーナスの運用先がどのように変化したのか年代別で比較しました。

20代は「株式」、30代は「債券」、40代は「債券」と「金・プラチナ」、50代は「外貨預金」を選択する割合が、それぞれ大きく増加しています。

特に50代では「外貨預金」を選択した割合が34%となり、1年前と比べて13%も増加する結果となりました。